

小児用肺炎球菌ワクチン接種についての説明書

小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

【接種対象者】

接種時点で大阪市民である生後2～60か月に至るまでの子ども（5歳の誕生日の前日まで）

【接種方法】

| 接種開始時期 | 回数 | 小児用肺炎球菌 |
|---------------------------|----|--|
| 生後2～7か月に至るまで ※標準的な接種年齢 | 4回 | 初回接種：（標準的には生後12か月までに）27日以上の間隔をあけて3回 追加接種：初回接種終了後60日以上の間隔をあけた後、かつ生後12か月に至った日以降に1回（標準的な接種期間は生後12～15か月） ※初回2回目及び3回目の接種は生後24か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない（追加接種は実施可能）。 ※初回2回目の接種が生後12か月を超えた場合、初回3回目の接種は行わない（追加接種は実施可能）。 |
| 生後7～12か月に至るまで | 3回 | 初回接種：（標準的には生後12か月までに）27日以上の間隔をあけて2回 追加接種：初回接種終了後60日以上の間隔をあけた後、かつ生後12か月に至った日以降に1回 ※初回2回目の接種は生後24か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない（追加接種は実施可能）。 |
| 生後12～24か月に至るまで | 2回 | 60日以上の間隔をあける |
| 生後24～60か月に至るまで | 1回 | |

1 肺炎球菌と子どもの肺炎球菌感染症について

肺炎球菌は、子どもの細菌感染症の二大原因のうちのひとつの細菌です。まわりを莢膜（きょうまく）というかたい殻におおわれた菌で、人間の免疫が攻撃しにくい構造をしています。なかでも小さい子ども、特に赤ちゃんのうちは、まだこの細菌に対する抵抗力がありません。このため、細菌性髄膜炎など症状の重い病気をおこしたりします。肺炎球菌は文字どおり、肺炎の原因になる細菌ですが、ほかにも、細菌性髄膜炎、菌血症、中耳炎といった病気をおこします。

肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥や気道に保菌しています。保菌しているだけでは問題ありませんが、小さな子どもは肺炎球菌に対する抵抗力をもっていないので、比較的簡単に肺炎球菌に感染してしまいます。このように、肺炎球菌は、耳で感染症をおこすと「中耳炎」に、肺に入りこんで「肺炎」に、血の中に入りこんで「菌血症」に、脳や脊髄を覆っている髄膜の中に入りこんで「細菌性髄膜炎」を発症します。これらの病気は、もちろんほかの細菌やウイルスが原因でおこることもありますが、肺炎球菌が原因となる割合は、中耳炎31.7%、菌血症72%、細菌性髄膜炎19.5%という報告があります。

2 ワクチンについて

小児用肺炎球菌ワクチンは子どもに重い病気を起こしやすい15種類の血清型を含む不活化ワクチンです。免疫の未熟な乳幼児にも抗体がつくように工夫されています。このワクチンの接種によって、肺炎球菌による重い感染症（細菌性髄膜炎、菌血症など）を予防することが期待されます。

3 ワクチン接種の副反応

小児用肺炎球菌ワクチンの国内臨床試験でみられた副反応は、注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、機嫌が悪い、発熱（38℃以上）などです。

ただし、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。

(1) ショック、アナフィラキシー様反応（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんまし

んなどを伴う重いアレルギー反応のこと)

(2) けいれん

4 予防接種をうける前に

(1) 一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤ このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑥ 血小板減少症、凝固障害のある方、抗凝固療法を受けている方（血液がかたまりにくい状態の方）

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後に違う種類のワクチンを接種する場合、接種間隔をあける必要はありません。また、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能です。同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。

5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障害が残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償が設けられています。申請に必要な手続きについてはお住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。申請後、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

大阪市保健所・各区保健福祉センター